高等教育質保証学会第８回大会
大学の内部質保証、外部質保証を分野別評価の視点から考える　2018/8/25 Sat.

短期大学での「学び」と総合評価の関連性に関する考察
―「幼児・保育」分野に着目して―

〇宮里　翔大（桜美林大学大学院）〇堺　完（立教大学）
山崎　慎一（桜美林大学）黄　海玉（短期大学基準協会）

introduction

減少する短大生：53万人（1993年）→12万人（2017年）
社会的ニーズへの対応：短期大学で最も多い分野は「幼児・保育」→人材需要が強い領域

求められる短期大学の社会的役割：
社会の変化を捉えて…人材育成や地方の創生に大いに寄与するものと考えられる（中央教育審議会大学分科会，2014年，「短期大学の今後の在り方について（審議まとめ）」）

methods

使用した調査：
「短期大学生調査（*Tandaiseichosa*）」の2017年度
参加総数17,239人(57校)「幼児・保育」7,449人(40校)

使用したデータ：
短期大学の総合評価、教育への満足度、学生生活の充実度、進学動機、学習経験

results

1. 進学動機の比較（全体の肯定的評価の割合を100）
肯定的評価＝（当てはまる＋やや当てはまる）
↑就職関連項目、高校の先生からの勧めは高い
↓編入学や専門以外の部分に関する関心は低い
幼児・保育分野に進む学生の多くは、早く短大を卒業して、職業に就きたいという層である。

2a. 短大総合評価「短大での学び」の3群と学修満足度
3群＝選択肢4-5「肯定」、3「中間」、1-2「否定」
すべての項目において
「肯定」＞「中間」＞「否定」
の順で満足度が高くなっている
2017全体を「100」として比較すると、「肯定」のみ2017全体や幼保全体を上回っており、「中間」「否定」は下回っている。

2b. 短大総合評価「短大での学び」の3群と学習経験
3群＝選択肢4-5「肯定」、3「中間」、1-2「否定」
中間回答を「100」

↑肯定的評価：学習経験が豊富。特に「図書館の利用」「レポートの書き方」などは否定的な層と比較して大きな差
↓否定的評価：「宿題を提出できない」「授業をつまらなく感じた」といった経験が多い

2c.短大総合評価「短大での学び」の3群と進学動機
3群＝選択肢4-5「肯定」、3「中間」、1-2「否定」
2017全体を「100」

短大の特徴である専門＋教養のバランスのとれた教育内容への興味の有無、入学前後のキャンパスの印象や認識の差によって、入学後の学びに対する意識に差が生じていることが示唆された。
「何をどのような環境で学ぶのか」の認識が、入学前の理解と入学後の取組みに差を生じさせている可能性

discussion

満足度が高い＝学びに対して肯定的
→保育分野の学生は世間の短大生のイメージよりも真面目で、よく勉強していることが推察可

学習経験の積み重ねが学習満足度を高める

学びを阻害する2つのミスマッチの可能性
学ぶ意欲と内容のミスマッチ×
キャンパスイメージのミスマッチ
→各短大の学びや学習環境について、在学前だけでなく在学中にも理解する環境が必要